

【聖籠町の学校教育構想】  
**未来を創る子どもの育成**  
～親和性・企画力・貢献意欲の向上を目指し

**教育目標：新しい自分を見つける**

**知育**  
基礎・基本と深い学びの定着  
☆年度末 CRT の結果で、全教科平均が全国比100を超えた学年が  
A 全学年 B 4～5学年 C Bに至らない

**徳育**  
学校生活における「ほっこり感」(安心感)の醸成  
☆「学校で安心して過ごせるか」という内容の児童アンケートに肯定的回答をした児童が  
A 90%以上 B 65%以上 C Bに至らない

**食育健康**  
規則正しい生活習慣への改善  
☆メディア接触時間2h以上の児童の割合が5ポイント減  
☆全校の朝食欠食率が3ポイント減 ※R3 約15%の児童が欠食  
A 両方 B 片方 C Bに至らない

1 一人一人に適した「キュビナ」の活用  
☆キュビナの習熟度レベル A・Bになった人数の割合で60%以上の教科が  
A 35教科 B 24教科 C Bに至らない  
※全44教科  
・低学年2教科×2学級  
・中学年4教科×2学級  
・高学年5教科×2学級  
【そのために】  
・山小授業スタイル(キュビナを活用した授業)の実施  
・ワークブックの計画的な配信と家庭学習での活用  
・個に応じた予習、復習の推進

1 いじめ見逃しゼロ即時対応の徹底  
★「いじめ見逃し防止シート」によるいじめ認知件数が年間で  
A 80件 B 60件 C Bに至らない  
2 子ども一人一人へのあいさつと認める声掛けの徹底  
★教員各自が定めた取組を実施した回数が1週間で  
A 4回 B 2回 C Bに至らない

1 メディア接触時間減少に向けての啓発  
★養護教諭の年4回の啓発活動に連動し、学級指導を行った回数が全校平均で  
A 4回 B 2回 C Bに至らない  
2 朝食欠食率低下に向けての啓発  
★栄養教諭の年4回の啓発活動に連動し、学級だより等で働き掛けた回数が全校平均で  
A 4回 B 2回 C Bに至らない

**特別支援教育の充実**  
◇教育的ニーズの的確な把握と早期支援  
◇全教職員の共通理解・UDL授業の推進  
\*UDLとは、学びのユニバーサルデザインのこと、主体的に学ぶ枠組みです。

2 子どもの変容を想定した授業準備  
★「研修ノート」提出回数が年25回以上だった教員の数が  
A 21人(全員) B 17人(80%)  
C Bに至らない  
【そのために】  
・研修ノートを交流するミニ研修会の実施  
・研修ノート展示会の実施

**幼小連携**  
◇接続期カリキュラムに基づく円滑な接続

**小小・小中連携**  
◇町各種教育部会・推進委員会を生かした、現代的諸課題、各種教育への対応



**コミュニティ・スクールとして地域とともにある学校**

☆☆【大人アクション5】☆☆  
1 子どもの話をよく聴こう!  
2 もっと声をかけよう!  
3 大人からあいさつしよう!  
4 いいところを見つけよう!  
5 努力の過程を認めよう!  
褒めよう!

会合、行事、各種便り、HP、報道による情報の発信・共有

☆学校運営協議会を核に地域が参画する学校運営  
☆地域学校協働本部事業の充実・サポーターの活躍  
☆PTAを中心とした家庭教育の充実(躰・生活習慣・家庭学習・家読)  
☆関係機関、諸団体との連携